

技術のおたずねにこたえて

【おたずね】

「針葉樹の構造用製材の日本農林規格」での乾燥材の表示の仕方、この時の含水率の測り方などおたずねしたい。

(K市 T生)

【おこたえ】 この規格は平成3年7月31日から施行されましたが、乾燥材を含水率の値によって三つに区分し、表示してよいことになっています。すなわち、含水率15%以下のものをD15、20%以下のものをD20、25%以下のものをD25とそれぞれ表示できます。

この場合の含水率は、全乾重量法(JIS Z 2102)によって測定することになっていますが、試験の適合基準を満足するかどうか明らかに判定できる場合は、その方法によってもよいことになっています。

このため、全乾重量法によらずに含水率を求めするための検査では、(財)日本住宅・木材技術センタ

が、認められた含水率計が用いられています。

こうした認定機種には現在次の三種類があります。

木材水分計MoKo - 2

(型式HM - 520) ケット科学研究所

高周波水分計WAKARL - S

(型式FSK - 118) フソー(株)

C S A高周波木材水分計

(型式DELTA - 5) エーデス機械産業

これらはいずれも高周波式の含水率計です。このタイプの含水率計は木材の比重に著しく影響を受けますので、測定する樹種ごとに比重補正を行わなければなりません。機器の取り扱い説明書に樹種ごとのこの値が示されていますので、これにしたがって正しくダイヤルをセットしてください。

また、これらの含水率計はいずれも測定深度があまり深くありませんから、測定する材の水分傾斜が大きい場合には、正しい含水率の値を示さないことがありますので、その点で注意も必要です。

(林産試験場 乾燥科)